



No.  
**68**  
2023 Spring

山南寺  
含松山

に授けられています。

明峰さまは瑩山さまの思いに応えて、ご自分の弟子たちに「道元さま手縫いの袈裟をいただいた。『正法眼蔵』を広めることに尽くせ」と指示されています。明峰さまは大乗寺第三代住職、永光寺第二代住職となつて、瑩山さまの後を継ぎました。

## 瑩山禅師ものがたり⑬



いた峨山さまですが、瑩山さまの前では手も足も出ず、完敗してしまいました。

その二年後、阿波（徳島）から大乗寺に戻られた瑩山さまを、峨山さまが訪れ再会を果たします。憔悴した様子の峨山さまを一目見るなり、瑩山さまは禪門での修行を勧められます。こうして峨山さまは瑩山さまのことで修行を始められることになりました。

### 峨山さまには總持寺の住職を

瑩山さまは、峨山さまには總持寺第一代住職を譲られました。この時、道元さま手作りの竹籠を授けられています。峨山

さまは明峰さまの入滅後十六年も長生きして、九十一歳まで四十五年間、瑩山さまの後継者として僧団の基礎を固められました。

### 明峰さまには大乗寺の住職を

峨山さまの主だった弟子は「峨山の二十五哲」と言って二十五人いました。そのうちの五人がそれぞれ、總持寺に普藏院、妙

高庵、洞川庵、伝法庵、如意庵を建てまし

た。それを五院と言いますが、その五院の支流が四五〇ヶ寺に広がり、それをベースに全国各地に峨山派の寺院が建てられました。一方の明峰派の寺院は、東北、関東、

北陸、中国、九州に広がってきました。曹洞宗が約一万五千ヶ寺という最大の宗団に発展したのは、瑩山さまの門弟育成の賜物と言えます。

### 悟りに到達する、そのため

瑩山さまが育てた門弟のうち、出家した男子の僧六人を「四門人六兄弟」と言い

ますが、その六人のうち、特に瑩山さまの二大高弟と呼ばれるのが、峨山さまと明峰さまのお二人です。

### 問答を挑んだ峨山さま

峨山さまは能登に生まれました。比叡山で修行し天台教学を学びました。瑩山

さまが大乗寺を継ぐ一年前のこと、所用で京都に滞在されていた瑩山さまのもとに、突然峨山さまが訪ねてきて問答を挑まれたのです。

瑩山さまは、どういう修行をすれば悟りを得ることができるのか、その覚悟を門

弟たち一人ひとりに強く求められました。弟たち一人ひとりに強く求められました。その必死な思いと姿に弟子たちも奮起、多くの優れた門弟たちが育つていきました。

当時、比叡山で一番の秀才とうたわれて

いた峨山さまですが、瑩山さまの前では手も足も出ず、完敗してしまいました。

その二年後、阿波（徳島）から大乗寺に戻られた瑩山さまを、峨山さまが訪ね再会を果たします。憔悴した様子の峨山さまを一目見るなり、瑩山さまは禪門での修行を勧められます。こうして峨山さまは瑩山さまのことで修行を始められることになりました。

## 三月二十四日の彼岸会に参り

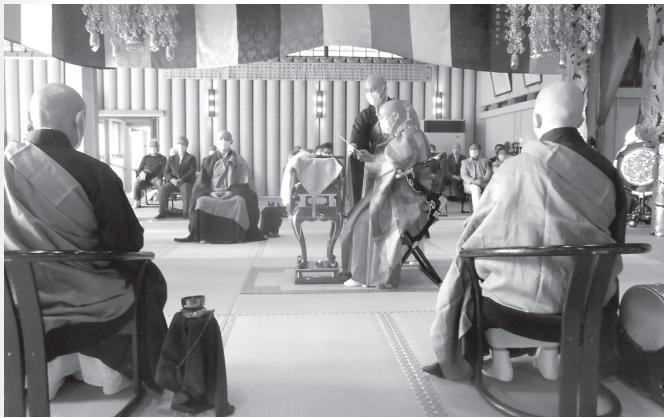
ご先祖様に感謝をささげましょう

春分の日を中心とし、前後三日  
ずつをあわせた七日間が「お彼岸」  
です。今年は、十八日が「彼岸の入  
り」、三月二十日が「彼岸の中日」、  
二十四日が「彼岸結願」になります。

春分の日には、太陽が真東から

のぼり真西に沈みます。私たちが  
生きているこの世「此岸」と、亡き  
人の世界である「彼岸」が最も近  
くなり、思いが通じやすくなる特  
別な日です。

病気や悩みが多く先行きが見  
えない此岸から、迷いや苦しみの  
ない心安らかな彼岸へ。お彼岸の  
七日間は、気持ちよく彼岸に旅立  
てるよう、生き方を見直し、善行  
を積んで、ご先祖様に感謝をささ  
げる大切な期間です。



ご家族そろってご先祖様に感謝をささげましょう

日午後一時から彼岸会施食会を修  
行いたします。ぜひ、彼岸会にお  
参りいただき、ご先祖様に手を合  
わせましょう。当日ご都合の悪い  
方は、不参加でのご回向をお受け  
いただしますのでお問い合わせくだ  
さい。

## 臨南寺会館（紫雲殿）が 新しくなりました

老朽化のため建て替え工事を行つ  
ていた臨南寺会館（紫雲殿）が工  
事を終え、生まれ変わった姿を現  
しました。

紫雲殿には、親族をはじめ友人・  
知人の参列者が多く予想される一般  
葬に最適な100名収容の中式場。

さらに、規模によっては、屋外に大  
型テントを設置することでより多く  
の参列者に対応することもできます。  
由緒ある臨南寺境内に完成した  
莊厳な葬儀施設です。詳しくは左  
記にお問い合わせください。

◆ お問い合わせ

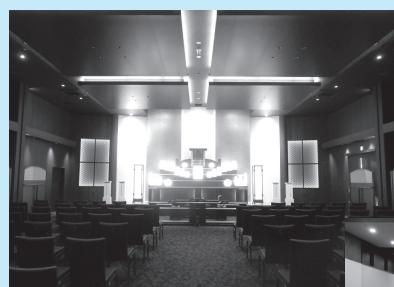
紫雲殿待機所

○六一六六〇五九四〇〇

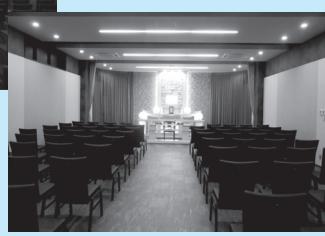
臨南寺では、彼岸結願の二十四



新しくなった臨南寺会館（紫雲殿）の全容



大型葬に最適な250名収容の大式場



一般葬に最適な100名収容の中式場

# 「はんにや心響」第一回

この度、数回にわたって連載させて頂くこととなりました、山形県酒田市 正常院住職 成澤祐吾と申します。

私の人生の中で心に響き、自身の成長につながった「ことば」や「出来事」（智慧=はんにや）を皆さんに紹介させていただきます。お読みくださった方の日常の糧となればと願っております。

第一回は、元サッカー日本代表監督・岡田武史さんのことばです。昨年のサッカーワールドカップでは日本代表の活躍に喜一憂いたしました。メディアもいろいろな方がそれぞれの視点から意見されており、解説者のコメントにも注目が集まりました。

以前、代表戦で中々ゴールが決まらず苦しんでいた香川真司選手がゴール前でこぼれ球をシュートしたときに実況のアナウンサーが

「いやあ香川選手ラッキーなゴールでしたねー、岡田さん」と解説の岡田武史さんに言うと

「いや、ラッキーなゴールなんてありませんよ、神さまも見ている。こういうときは努力を重ねた者だけにボールが転がってくるそういうものなんですね」と淡々と言い、アナウンサーが恐縮したことがありました。そのときから岡



山形県酒田市 正常院住職  
成澤祐吾老師

## ○ 彼岸会お墓経

\*三月二十日・二十一日 午前十時～午後三時  
お彼岸のお墓経を行います。臨南寺にお墓をお持ちの方に限ります。  
(回向料二万円)

## ○ マトリお墓経

\*三月二十日・二十一日 午前十時～午後三時  
お彼岸のお墓経を行います。お申込み多数の場合は各家ご同席で読經いたします。(回向料二万円)

## ○ 春季彼岸会施食会

\*三月二十四日 本堂にて  
午後二時～午後二時三十分  
お彼岸供養の法要を行います。お彼岸はご先祖様に感謝する大事な期間です。ご先祖様を偲び今あることに感謝いたしましょう。どなたでもご参加いただけます。(回向料二万円)

## ○ 祀尊降誕会(花祭り)

\*四月八日 本堂にて  
お祝迦様の御誕生日に、感謝と報恩の法要を行います。本堂前にお誕生仏と甘茶を夕方まで置いています。

## ○ がつしょう園マトリ合同法要

\*五月十四日  
午後二時～午後二時半  
マトリにご納骨された方々の慰靈の法要を行います。マトリでご焼香していただきます。

\*なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては、中止することや変更する場合もございます。臨南寺の行持については、臨南寺のホームページでご確認いただか、電話でお問い合わせください。

寺務所の電話 ○六・六六九八・一〇〇（九時～十七時）

早朝坐禅会、写経会とも

しばらくお休みさせていただきます。  
ご了承ください。

臨南寺行持予定（三月・四月・五月）

一月十五日、

# 弁財天祈禱会とうえいを

修行しました



新年を迎えて最初の法要、弁財天祈禱会が本堂で一月十五日修行されました。祈祷会に先立ち、大澤住職から紫雲殿の建て替えが無事に完成したことが報告され、祈祷後に内覧会が行われました。

その後、『大般若波羅蜜多經』六百巻が転読さ

れ、コロナ禍が一日も早く終息し、新しい年が安ら

かであります

よう全員で心

を込めて祈願

いたしました。

また、皆様の

無病息災、家

内安全を願って、

お札、お守り、

守護矢が、全

員に授けられ



皆様の無病息災、家内安全をご祈念いたしました

## 新しい休憩所でお休みください

休憩所が新しくなりました。どうぞご利用ください。階段の横にスロープも設置していますので、車椅子の方もご利用いただけます。



### 編集後記

「ほ～っと」68号

令和5年2月

編集・発行：棱伽林「ほ～っと」  
編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：<http://www.rinnanji.com>

## お彼岸は車が込み合います



この歩道は自転車もご利用いただけます

境内の歩道は、徒歩の方や車椅子の方だけでなく、自転車の方もご利用いただけます。

数年前から、当寺院の境内地で人身事故が発生しています。境内での運転は最徐行をお願いします。改善される様子が見られなければ、車両の乗り入れを禁止いたします。

なお、境内地内での事故等につきましては、当寺院では一切の責任を負いません。

先日、白浜へ妻と二人で2泊3日の温泉旅行に行ってきました。手術の後で少し心配しましたが、一日4回も温泉に入ることができ掛け流しの湯を堪能しました。地域クーポンで海鮮丼もおいしくいただきました。温泉熱に再び火が付いたようです。(M)